

# おおとり会だより

## 静岡県立大学連合学友会「はばたきの会」

### この一年とこれからの展望



静岡県立大学学生部学生室長  
「はばたきの会」事務局  
川口 祥二

静岡県立大学連合学友会「はばたきの会」も二〇〇六年十月二十八日に設立し一年半近くが経ちました。設立に際しましては、おおとり会会長・大石様をはじめ会員の皆様には、御支援・御協力を賜り誠にありがとうございました。

本会は、各学部同窓会、おおとり会、後援会等大学関連諸団体及び在学生の学内団体等で構成され、会員間の連携・支援・相互協力等を主な事業としております。おおとり会総会の準備、剣祭の模擬店参加へのお手伝いと貴会に少しでもお役に立ちたいと思っております。今後何なりとお申し出ください。また、「はばたきの会」では、ホームページの作成にも取り組んでおります。各団体のページを御用意しておりますので、是非貴会にも掲載をしていただき、総会等の御案内など広報活動等に御利用いただければと思います。このように各関連団体への協力をさせていただく一方で、大学本来の教育・研究活動を効率的に支援し、優秀な若者を育成し、地域日本のみならず国際レベルでの学術的貢献を目指しております。貴会の御協力をいただき

実現に向けて活動していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

本会も設立してまだ日が浅く、右往左往をしている毎日です。歴史ある「おおとり会」の皆様のお助けをいただきながら、「はばたきの会」の名に恥じぬように努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

平成十九年度

おおとり会総会に

寄せて頂いたお葉書より

静岡県立大学

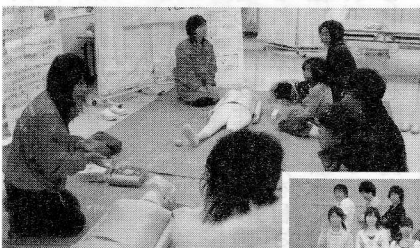
廣部雅昭 前学長

県立大も今年から法人化され、同窓会組織からの支援が益々重要になっております。この機に懸案であった同窓会連合組織が立ち上がったことは真にご同慶にたえません。大学の新たな発展に絶大なるお力添えをお願いいたします。

おおとり会会員の皆様のご健勝を心から祈念いたします。

## 防災ボランティアサークル 防'z

地域の消防団や自治会との交流を通じて、救急処置技術の普及と防災意識の向上を図るなど、積極的な取り組みを行っている。



※当サークルは、2度目の「おおとり会賞」受賞です。

## 院 生 ネット

学生向けフリーペーパー「hear」（現在「静岡時代」に変更）を発行するなどの情報発信を行い、SOHOビジネスプランコンテストで、学生部門優秀賞と静岡新聞IT賞を受賞。下の写真は、7月の「参院選」時、選挙の啓発活動をした折のもの。



平成十九年度「おおとり会賞」は、左記の二団体を選出され、平成十九年四月二〇日に行われた開学記念行事において、西垣学長から表彰されました。

はばたき寄金



元静岡女子大学学長

小田 幸雄

## 虚学の勧め

最近或る友人からの情報。——何年か前までは、我々日本人は、外国語の会話が苦手——だから、外国人たちは、時に、この「寡目」さを前にして、却ってそこに仄かな奥床しさを感じ、それなりに一種「尊敬」の念すら抱いたものだった。ところが、最近の「猫も杓子も英会話ブーム」。——多くの日本人がペラペラと英語を操れるようになった。——結果、日本人のアタマの中が、いかにブアーで、空っぽなものであるかが判然としてしまった——というのである。

私はまだ現役の教師であった頃、一つの新聞記事に胸を衝かれたことを思い出す。——日本を代表する大会社の一つが、「ビジネス・レター」を起草する要員として、わざわざ英本国から一人の若い女性を呼寄せて採用に及んだ——との報道である。「英文科卒」を名乗る若き日本人学士たちはゴマンといるのに、この会社は彼らの方を顧みることしなかつたのだ。その「理由」とするところは、日本の大学卒たちは、英米人が幼い頃から慣れ親しんでいる古典的文章表現など、いわば、英米人たちの「心の文化」への知識や理解が不十分で、彼ら英米人顧客の心を捉えるようなビジネス・レターが書けないことだ——という話である。——英文科スタッフの一員として、「英作文」を担当し、また、学生達と、シェイクスピア作品の原語上演を目的とする「部活」を立ち上げたりして、及ばずながら、英語が表現する「心」の世界にも思いを到していると思いたがすつかり打ちのめされた思いに駆られたことは、想像に難くはあるまい。しかも、当時、(今でもそうなのかも知れないが)我が国の「文学士」たちの会話能力の低さは、その「教育母体」である「英文科」の教師の大部分が「英文科」卒であって、用いる教材が、英米文学に偏り、実用性に

乏しいことに原因する——と云った論が、相当に罷り通っていて、私の胸を痛めていたことを思い合わせると、今に口惜し涙が滲む思いである。

ところで今、世は実利実用主義の花盛り、——大学のカリキュラムにも、「リスニング」・「スピーキング」などカタカナ語が踊り、「英米文学」「英語学」といった所謂アカデミックな単語は氣息奄々だとも聞かされている。卒業、即、月給への反映を求める「お客様」——「学生諸君」の要望に沿わないと、大学は採算割れで存亡の危機——という理屈は百も承知なのだが、いやしくも、其処が「未来」を見据えるべき学問の府である以上、時には大学の見識として、「要望」されなくても敢えて提案の上、「教育」サービスを提供するということも必要な筈。——外国人の心と触れ合い、真の相互理解の創出をはかるために、この辺で、文学、哲学、美学、宗教学等、「虚学」といわれる学問の存在意義を再検討してみることも、「百年の大計」の一端と言い得るのではあるまいか。

## 出会いの人生を感謝して

元家政学部被服学科教授

長 塩 静 子

おとり会の会報編集委員会から思いもかけないお手紙を受けて、総会に欠席の責めを感じつつ、ペンをとりました。私は一九七七年(昭和五二年)から一九九一年(平成三年)まで在籍し、一九九〇年三月静岡女子大学閉学の時、家政学部被服学科主任として幕引きをしました。その後、浜松市立看護専門学校で非常勤講師を勤め、一九九七年(平成九年)四月開学の静岡県立大学短期大学部社会福祉学科に二〇〇五年三月まで非常勤講師でお手伝いさせて頂きました。そして四月に静岡を引揚げ、吹田市千里の丘の住人になりました。

ここ大阪YWCAシャロン千里は、大阪YWCA(一九一七年設立)が創立五十周年事業で「千里センター」を設立。子ども・子育て・青少年に焦点をあてた活動を展開してきたのを基盤に、高齢化など社会的状況と二一

ズから、二〇〇〇年大阪YWCA総合福祉施設「シャロン千里」を開設、五十人を容れるケアハウスが併設されました。その計画を東京時代からの日本Yの友人の誘いで入居申込みをしていたので、一室が与えられ全くタイミングよく、あわただしい転居になりました。

YWCAは(Young Womens Christian Association)世界中の女性が力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を旨とする国際NGOで、一八五五年英国ではじまり、日本を含む一二〇あまりの国と地域でそれぞれの活動をしており、大阪YWCAは大阪(梅田)と北千里を活動拠点に様々なプログラムを展開しています。私はこれまで、会員でも実際の活動には中々参加できずにいたので、これから出来る限りボランティア生活を考えました。幸に、明るく元気あふれるメンバーと一緒に、にぎやかに活動に加わることができました。

病院に関係して、手術時に使う綿球、清拭布ボランティア。アトリエ「創」のグループは、持ち寄った古布、残布で小袋や小物、パッチワーク作品を製作し、バザーで評判をとっています。また、足が不自由で外出しにくい方々に、毎週火曜日の午後「ほのぼのショップ」を開き、洗剤やペーパー類、一寸したお菓子などの販売を手伝っています。

この地域は集団団地ですが、万博記念公園に近く、モノレールの駅もありますが、西口まで歩いて四十分位。公園は広々と木々と芝生におおわれ、梅・桜まつり、チューリップ、あじさい、ラベンダー、コスモスなど、次々にフェスタが催され、特に紅葉まつりは圧巻。日本庭園は四季折々の花が、何時行っても私達を楽しませてくれます。国立民族学博物館は今年開館三十周年で、友の会会員として月々の講演会に参加できるのは、大きな喜びです。

草薙の丘に通勤した日々で、現在の足が支えられていることを思い、静岡での生活すべてを心から感謝しています。

皆さん、どうぞお元気で毎日を。



# 年に一度のタイム・スリップ旅行

国文学科(短大十回卒)

佐藤 容子

九十六年十月、ヤマハリゾート嬌恋にふと立ちきつかけで集まり、ウン十年振りの旧交を温めた私達は、毎年こうして集まろうと意気投合。そろそろ子育ても終りに近づき、生活に余裕が出てきた頃だったと思う。それが、仲の良い我々十回生の、年に一度の、心の絆を深める旅の始まりだった。その後、修善寺の虹の郷を皮切りに、毎年秋に、時として夏に一泊旅行に出掛けた。木曾路の妻籠では、文化財指定となつている老舗の旅館に泊つたり、大汗をかき乍ら真夏のお台場巡りをしたり、近場の日本平ホテルや松風閣に泊つた事もあつた。又、御所の一般公開日に合わせて京都にも泊り、北海道の友が来るという事で、十六人をかき集めての飛騨への旅は最高だった。改めて「学友ついでいなあ

# 新しい世界に生きる力

英文学科(大学十回卒)

ウエンドフェルト延子

私は、ここ十五年ほど沼津にある加藤学園秀初等中学高校で仕事をしています。その特色は三つ。文科省認可、英語イマージョン教育、国際バカロレア(IB)認可。

文部省のカリキュラムは、日本人としての教習を次世代に伝えていく範囲を規定しているという意味で有効だ。それを補完する形であとの二つが機能している。

英語イマージョンは、一般科目を英語で教えることで、伝達の道具として英語を使用しつつ習得をはかる。そもそも言語は、伝える意志・内容・技術が有機的に機能して実現するという考え方が基盤となつている。

IBは、学習範囲よりその方法に重点を置いて

！」と思つたものだった。その学友には、先生として勤めあげた友は勿論多い。能の役者、彫金では県の伝統工芸奨励賞を頂いた友、日本画として東京都知事賞を頂いた友もいる。又、絵手紙の先生、同人誌に和歌を発表している友、お茶お花の先生、ブティックを開いている友もいる。フランスを教えている友の話には笑いが絶えない。多士済々、個性派揃いの十回国文科の面々だが、実に仲が良く、そう、今年誰が何処へ連れて行ってくれるのだろう。そして、何人の学友と会う事が出来るのだろうか、今から楽しみだ。



いびだホテルプラザ 2004.10.17

ている。学校を現実世界の擬似体験の場と捉え、問題意識を持ち解決策を模索しつつ資料を収集吟味し、試行錯誤の末考えをまとめ、その内容を伝えるため多様なコミュニケーション手段で伝え、相手を説得し、仲間の評価を受け、修正し、協力して実際の行動に移すという一連の活動をする。

「追いつき追い越せ」の日本も次のステップを創造し続けることが期待される時代。現実の渾沌に對面する苦しみと充実感を知る子どもたちは、たくましい。熱い希望と、確かな問題意識を持ち、意気揚々と次々に巣立つて行く。実に頼もしい。



# みなさん お元気ですか

## 「健康不安」への対処法

食物学科(大学三回卒)

梶原 公子



昨年二〇〇七年という年は、食品表示偽装など食の問題と、メタボ健康審査など健康問題が話題になりました。「食と健康」に少なからぬ関心を持つ私も、ニュースや新聞記事に注目すること大でしたが、戸惑うことも大でした。例えば「メタボはやせた人も危険」という報道がある一方で、「癌のリスクは太っている人の方が大きい」と書かれている。これだと結局いつも「丁度良い体型」でなければ、健康不安につきまといわれてしま

## 学生時代を過ごした街に暮らして

被服学科(大学五回卒)

草野 恵子

大学を卒業して三十年余経ちました。卒業後はきものを染める会社に就職して七年ほど勤めましたが、きもの業界の不況で会社の事業縮小などがあり、それを機に退職して、看護専門学校に入学して助産師になりました。現在は、もと女子大があった草薙の近くの瀬名川というところで小さな助産院を開業しています。

今年、開業して十年を迎えます。産科医不足、助産師不足で産む場所が減っているなど、お産をとりまく状況が厳しいことはマスコミ等でも取り上げられています。幸い静岡市はお産を取り扱う病院やクリニック、助

産院が多く、医療連携も比較的とれているので、妊産婦さんにとっても助産師にとっても住みやすいところですよ。



また、毎週土曜日の朝に友人たちと県立大学の裏手にある山を散歩していますが、県立図書館や芝生公園も当時の面影を残しており、学生のころ、お茶畑の中の細い坂道を通ったことなどをよく思い出します。

そして、私たちが通つた女子大はありませんが、現在の県立大学看護学部の学生さんたちが助産院に実習に来ますので、何かしらつながりがあるようで不思議な気がします。

学生時代を過ごした街に暮らす良さをつくづく感じる今日この頃です。

# 総会報告

新緑の美しい谷田の丘に、今年も集う日が巡ってまいりました。平成十九年度おとりの会総会が、平成十九年六月三日、県立大学看護学部棟にて開催されました。

当日は、お天気に恵まれ、見事な司会進行に支えられ、役員・幹事全員がそれぞれの担当部署で大活躍。無事に終了することができました。まるで学生時代にタイムスリップしたかのような一日でした。

アトラクションは、地元で活躍中の稲木良光氏を中心としたバイオリン・ピアノ・コントラバスの三重奏によるコンサートでした。すばらしいクラシック演奏に会場は水を打ったかのように静まり返り、感動のひとつきでした。

学長先生はじめ学生部の先生方の心強い御支援をいただき、思い出の多いあの谷田の丘に、毎年集えますことは、本当に有難いことです。また、学友会発足により、県立大学が一層身近な存在になりました。当日のアンケートに、「クラシックの生演奏がすばらしか



った。お懐かしい先生方や同窓生に会えてよかったです。学長先生のお話が興味深く来年も是非お願したい」との声が多くありました。また、幹事の皆様からも「楽しかった！係の仕事を通して人間関係が広がった。来年も参加したい」などの声が聞かれ、楽しんで取り組んで下さったことに感謝感激でした。先輩・後輩とのお付き合いの中で学ぶことも多く、会長さんを中心にみんなで一枚岩となってイベントを作り上げていく喜びを感じ、貴重な体験をさせていただきました。お一人でも多くの方が、おとりに会に関わり、同窓会を盛り上げようではありませんか。

来年もまた谷田の丘でお会いしましょう。  
当番幹事  
被服学科（大学二回卒） 鈴木明美

## 剣祭バザーから

平成十九年十一月十一日、恒例の剣祭が県立大学で行われました。



今回は、西垣学長をはじめとして、大勢の先生方がおとりに会のコーナーに、寄って下さいました。今回のバザー開催にご協力下さいました皆様に、お礼申し上げます。

### 剣祭バザー収益金

八一、一八五円

同窓会費に入金させていただきます。



## 平成18年度 決算報告書

総収入 14,348,360円 支出 835,431円 残高 13,512,929円(繰越金)

自平成18年4月1日  
至平成19年3月31日

収入の部		支出の部		備考	
費目	決算額 円	費目	決算額 円	備	考
受け取り利息	223,636	事業費	218,850	総会	136,093 剣祭 82,757
基金入金	918,000	会議費	58,902	役員会・理事会・当番幹事会・編集会議	
剣祭余剰金	91,980	印刷費	136,030	おとりに会だより・総会案内状・その他コピー代	
総会余剰金	18,375	通信費	386,570	案内発送	4,300×80=344,000
雑収入	0	慶弔費	15,750		
		事務・雑貨品費	19,329		
		予備費	0		
小計	1,251,991	小計	835,431		
前年度より繰越	13,096,369	次年度へ繰越	13,512,929	定額貯金・通常貯金・公社債・書籍・現金	
総計	14,348,360	総計	14,348,360		

上記の通りご報告致します。平成19年3月31日  
会長/大石邦枝 会計/大石紀子・近藤和恵  
監査の結果、相違なく適正と認めます。平成18年4月21日  
会計監査/浜尾朋子・鈴木久美子

## 平成19年度 予算

自平成19年4月1日  
至平成20年3月31日

収入の部		支出の部		備考	
費目	19年度予算	費目	19年度予算	増減	備
受け取り利息	30,000	事業費	200,000	0	総会・剣祭
基金入金	100,000	会議費	80,000	0	当番幹事会・理事会・会報編集会議
剣祭余剰金	20,000	印刷費	200,000	0	会報・総会案内状・会議用資料
総会余剰金	0	通信費	400,000	0	会報・総会案内状の送付、会議の通知
雑収入	10,000	慶弔費	50,000	0	
		事務・雑貨品等	20,000	0	
		予備費	50,000	0	
小計	160,000	小計	1,000,000	0	
前年度より繰越	13,512,929	郵貯・公社債等	12,672,929	216,560	
総計	13,672,929	総計	13,672,929	216,560	

\*他費目への流用を認める

## 第16回 草薙の丘の集い

二〇〇七年五月二十七日(日)

京都京阪ホテルにおいて小泉保先生を囲み、同窓生が集まりました。今回は、英文科・大学三回卒の谷上れい子さんから、『イギリス留学の思い出』と題して、留学先ケンブリッジ大学の様子や研究内容について、お話を頂きました。

## 訃報

平成十九年二月二十五日

元静岡女子大学名誉教授

森 主一 先生 九十四才

平成十九年三月十二日

元静岡県立大学教授

沼田 俊昭 先生 六十七才

が御逝去されました。御冥福を心からお祈り申し上げます。

編集委員

原 都子・森 恵美  
佐藤 容子・石田 加苗